令和２年７月例会　資料

令和２年７月２３日
１９期　古川　耕三

新しい「Microsoft Edge」について

マイクロソフトは 2020 年 1 月 Windows10 に付属する Web ブラウザー「Microsoft Edge」の新版を、独立したアプリとして公開しました。(以下「新しい Edge」「新 Edge」と表示します)

新しい「Edge」のアイコン⇒

１．新しい Edge の大きな特徴

ブラウザーの核となるエンジン部分が、米グーグルの Web ブラウザー「Chrome（クローム)」と同じになったことです。ここでいうエンジンとは、特定の機能を提供するひとまとまりのソフトやハードを指し、検索サービスのソフトを「検索エンジン」、プリンターの印刷機構を「プリンターエンジン」と呼びます。
今回は、ページの表示に関わる「ＨＴＭＬエンジン」とスクリプトの実行に関わる「Java Script エンジン」が変わりました。
旧 Edge ではこの２つのエンジンは、マイクロソフトが自社開発したものを採用していたのだが、これを Chrome と同じものを採用することにより、互換性が大きく高まることになった訳です。
マイクロソフトはユーザーの利便性を優先するため、自社技術に固執せず Chrome と同じエンジンを採用した新 Edge を開発する決断を下したことになります。

２．新 Edge のインストール

新 Edge は Windows Update によって自動的にインストールされますが、時期はパソコン毎にマイクロソフト側で自動的に決定されることになっております。
（但し、それ以前に公式サイトからセットアッププログラムをダウンロードして、手動でインストールすることも可能です）

新しい Microsoft Edge ブラウザーをダウンロード
https://www.microsoft.com/ja-jp/edge

新 Edge をインストールすると、スタートメニューやタスクバーなどに配置された旧 Edge のアイコンは全て新 Edge に入れ替わります。既定のアプリの設定が、旧 Edge だった場合それも新 Edge になります。
旧 Edge の設定や、「お気に入り」などのデータは自動的に引き継がれます。
旧 Edge は Windows10 専用の「ユニバーサル Windows プラットホームアプリ」(UWP アプリ、通称ストアアプリ)だったのが、新 Edge は従来型の「デスクトップアプリ」(Win32 アプリ)に変わりました。

３．新 Edge の基本操作と注目機能

（1）新 Edge の画面は旧版と同様にシンプル。
タイトルバー部分にタブがあり、アドレス欄と検索ボックスを兼ねる「オムニバー」を挟んで、
左にページ移動関連のボタン、右に「お気に入り」などのボタンが並ぶ。

旧 Edge では「お気に入り」やその他のメニューがウインドウ右側にサイドバーのように表示されたが、
新 Edge はデスクトップアプリに切り替わったこともあり、プルダウンメニュー方式となった。
「お気に入り」ボタンの右には、旧 Edge にはなかった Microsoft アカウントへのサインイン状況などを
表示するボタンが追加されている。

（2）同じ並びの右端にある「…」ボタンでメニューを表示するのは旧版と同じ。
設定画面もここから呼び出せる。表示される設定画面は 1 つのタブになる。
設定画面などをタブで表示するのは Chrome と同じ方式だが、表示される内容やレイアウトは
新 Edge 独自のもの。
設定作業は、画面左側でカテゴリーを切り替え、右側で個別の設定を行うスタイル。
Windows10 の「設定」アプリと似た感じ。
設定画面の中では、「プライバシーとサービス」の項目内で「追跡防止」機能が大きく扱われている。

（3）新 Edge には自動アップデート機能が内蔵されており、現在のバージョン表示や手動での更新確認
は設定画面の「Microsoft Edge について」で行える。
表示するには、設定などの「…」メニューから、「設定」→「Microsoft Edge について」

（4）画面レイアウトの設定方法は、「シンプル」「イメージ」「ニュース」「カスタマイズ」といった基本レイアウトを選んで切り替える方式に変わった。
そのほか、デスクトップアプリになったことで、表示可能なファイルを新 Edge のウインドウにドラッグして開くこともできるようになった。
パソコン内に保存されている PDF ファイルを、新 Edge で開くといった操作が少し楽になった。

（5）旧 Edge になかった新機能の一つに「マイクロソフト翻訳」を使った外国語ページの翻訳がある。
外国語のページを開くと、オムニバーの右側に専用のアイコンとメニューが表示され、「翻訳」ボタンをクリックするとページの内容が丸ごと翻訳される。
翻訳が不要なら、メニューの「×」もしくはページ内のどこかをクリックしてメニューを閉じればよい。
旧 Edge ではストアから拡張機能を追加することで同じことが出来たが、新 Edge では機能が内蔵され、標準で利用できるようになった。この機能が完全に不要であれば、新 Edge の設定画面の「言語」を開き、「ユーザーの言語とページの言語が異なる場合に翻訳を提案する」のスイッチで無効化できる。

（6）Web サイトの「アプリ化」
Web アプリ型のサイトを、あたかも独立したアプリのように「インストール」することも出来る。
Web アプリ型のサイトを開くと、オムニバーの右側に丸いプラスマークのボタンが表示される。クリックして「インストール」を押すとサイトがアプリ化され、Web ブラウザーとは別のアプリ型のウインドウに切り替わる。このように「アプリ化」したサイトは、Windows アプリのような別ウインドウで開くようになり、スタートメニューから起動することも可能になる。
Edge が Web アプリとして認識しないサイトも、「…」ボタンのメニューから「アプリ」→「このサイトをアプリとしてインストール」を選べばアプリ化できる。
アプリ化したサイトは Windows 上ではデスクトップアプリと似た扱いがとられる。
このような機能は Chrome には以前からあり、Chromium ベースの新 Edge にも反映されたもの。

（7）拡張機能も Chrome 互換に
Chrome と同じ Chromium がベースになった新 Edge は、Web ブラウザーに機能を追加できる「拡張機能」も Chrome 互換となった。
逆に、旧 Edge の拡張機能は使えなくなっている。
旧 Edge で使っていた拡張機能そのものや設定は新 Edge に引き継がれないため、必要に応じて追加し直す必要がある。
同じ拡張機能が存在しない可能性もある。
旧 Edge の拡張機能は「Microsoft Store」アプリから追加していたが、新 Edge 用の拡張機能は、専用サイトから入手する。画面右上の「…」のメニューで「拡張機能」を選ぶと、拡張機能の管理画面のタブが開き、そこから専用サイトを開くことが出来る。必要な拡張機能を検索し、そのままインストールすればよい。拡張機能は Chrome 互換だが、新 Edge が標準でサポートするのは、あくまで新 Edge 用の専用サイトで配布されるものに限られる。
しかし、拡張機能の管理画面にある「他のストアからの拡張機能を許可します」という設定を有効にする

と、グーグルの「Chrome Web ストア」から Chrome 用の拡張機能をインストールできるようになる。
新 Edge に拡張機能を追加すると、オムニバーの右側にアイコンが追加される。

（8）新 Edge で標準の検索エンジンを変更する
旧 Edge では、オムニバーで Web 検索を行う際の検索エンジンがマイクロソフトの「Bing」に設定されているが、ユーザーが Google などに変更することが出来た。
この機能は、新 Edge も同様となっている。
新 Edge でオムニバーから利用する検索サイトを切り替えるには、
「設定」画面→「プライバシーとサービス」→「アドレスバー」と選ぶと、利用する検索エンジンをメニューから選ぶ画面が開く。

（9）新 Edge で消えた機能と退化した機能
旧 Edge から新 Edge への移行で消えた機能も退化した機能もある。消えた機能は、タブの縮小表示、タブの保存、リーディングリスト、ページへのメモ書きなど。
PDF ファイルへの対応は新 Edge で退化した。
ページ単位の表示や手書きは可能だが、見開き表示や目次からページを選択する機能、マーカーを使ったテキストのハイライト、コメント（ノート）などの機能は消えている。
これらの機能は、新 Edge のベースになっている Chromium に備わっておらず、必要であれば、マイクロソフトが追加の機能として開発し、搭載しなければならないものだ。
現在の新 Edge は Web ブラウザーに必要な機能を一通り備えただけの状態。
今後の機能強化、復活が期待される。

以上

出典　日経パソコン　2020 年 3 月 23 日号
特集２　新「Edge」を完全解説

文責　古川　耕三